

COUNT DOWN 閉校まであと 840日

校長閑話「七中の歴史を振り返って」

本校の歴史は還暦を超え、既に63年を経過しています。その間、校舎の造りも木造から鉄筋へと建て替えられ、また多く素晴らしい卒業生も輩出してきました。その七中の歴史を傍らで見守り続けているのが、3つある庚申塔です。学校前右手にある庚申塔は最も古いもので1773年（安永2年）に建立されたものです。今から、何と**245年も前**のことです。安永は、後に第11代将軍となる寛政の改革で有名な徳川家斉が生まれ（同2年）、解体新書を刊行した杉田玄白（同3年）が活躍し、エレキテルの発明で有名な平賀源内（3年）が亡くなった時代でもありました。



庚申塔はそもそも、庚申講（庚申の日（60日に1度）に夜通し行なわれる宴。）を3年間で18回続けた記念に建立されたものです。その習慣は平安時代に始まり、江戸時代に入ってから、広く民間に広まりました。今では庚申講も廃れてしまいましたが、今でも名を変え、行っている地方もあるそうです。また庚申塔は街道沿いに置かれ、そこには道標を彫り付けたものが多いそうです。さらに塞神として村の境目に建立されたこともあったそうです。本校を訪ねた際には、是非気に留めてみてください。

11月を振り返って



11月は期末テストが行われました。3年生にとっては、これまでの中で最も重く感じたテストであったことと思います。いよいよ三者面談を通して受験先が決定していきます。ゴールまであとわずか。頑張れ3年生。

さて、先日校長研修会の場で「七中の生徒はとても挨拶がよくできていますね。ある日の夕方、周辺が薄暗い中、遠くから『こんばんは』の声が聞こえました。暗がりに見知らぬ人に声をかけるのは、勇気のいることです。でも、気持ちよく響くその挨拶に、私が安心感を得ました。常日頃から挨拶の習慣が身に付いているからこそ、できることなのでしょうね。」と豊里台3丁目に在住の校長先生からお話いただきました。私も1丁目に住んでいますが、時折すれ違う本校の生徒からも、気持ちのこもった挨拶をもらうことがあります。挨拶＝七中 七中＝挨拶のイメージが地域の方には強く印象付いています。これからも、しっかりと挨拶は励行して行ってほしいと思います。

インドはい〜んど!? ⑤



Merry Christmas



12月に入ると、街中には赤色が目立つようになり、クリスマスが近づいていることを知るようになります。我が家では、ハローウィーンの終了と同時にクリスマスの飾り付け（リースやクリスマスツリー等）を行います。

さて、インドの生活様式はヒンズー教の慣習に従うことが多くあります。その一つとして「牛肉を食べてはいけない」はあまりにも有名なことです。しかしながら、私の滞在したニューデリーの某有名ホテルには鉄板焼きのレストランがあり、堂々と牛肉のステーキを提供していました??? しかし、提供できるには理由があり、「バッファローの肉は牛肉とはしない」ということからだそうです。

インドではヒンズー教徒が多数を占めますが、他にもイスラム教徒、シーク教徒、ジャイナ教徒、仏教徒、そしてキリスト教徒も存在します。そのようなことから、街中では日本と同じように12月はクリスマス色が濃くなり、クリスマスツリーやプレゼント用玩具の販売には一層力が入ります。我が家でも最近まではインドで購入したクリスマスツリーが活躍してくれていました。

